

静岡・小川城遺跡

- 1 所在地 静岡県焼津市小川字堀の内
- 2 調査期間 一九八〇年(昭55)～一九八四年(昭59)三月
- 3 発掘機関 焼津市教育委員会・焼津市埋蔵文化財調査事務所
- 4 調査担当者 原川 宏・山口和夫・丸山博信・大石佳弘
- 5 遺跡の種類 水田跡・集落跡・居館跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代～戦国時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(静岡)

小川城遺跡は、法永長者屋敷跡として伝えられ、長谷川一族の居館跡として知られている地区である。文献には、「今川記」「宗長手記」など、わずかに記されているのみで、長谷川氏の性格を伝える資料は皆無と云ってよい。今回の調査は、小川地区区画整理に伴うものであるが、地籍図に城跡遺構が明確に記されているのでそれを基に調査を実施してきている。調査前に城

郭内を小川城遺跡、城郭東外側の地区を別載の道場田遺跡として便宜的に地区を分け調査を実施してきている。これについても調査後の結果から若干の問題があるが、別の機会にし、今回は小川城内の主な遺構と木簡の概要のみとしたい。

小川城遺跡の居館は、東西約二〇〇m、南北約一〇〇mの堀に囲まれている。堀の規模は、幅約一五m前後、深さ約二mで、北側の堀には、八～二m間隔に畝状の遺構が検出されている。南側の堀は、城館内入口部との交点で堀が切れる可能性があるが、現状道路下にあるので明確でない。調査は、南・東・北の堀の約半分を実施し、西側堀については未調査である。

城館内は地籍図から想定すれば、土塁状遺構に囲まれていたであろうが現状では確証はない。調査で検出された主な遺構は、多数の掘立柱建物の柱穴群、井戸、溝状遺構である。特に規模の大きい溝状遺構は、建物機能を分離する区画を示す溝と考えるが調査が全域でないので明確でない。

これら堀・城館内の主な出土遺物は、瀬戸・常滑系を主とする国産陶磁器・須恵質土器・土師質土器、それに白磁・青磁・染付絵皿といった輸入陶磁器がある。木製品は、下駄・曲物・漆器類・織機の一部・杓子などある。呪術関係遺物としては、呪符木簡と人形・刀形・舟形・鳥形・獅子頭・羽子板といった形代、将棋の駒・陽物それに斎串が多数出土している。

木簡番号が順不同になるが遺構別に列記してみた。

- 城郭東側堀

- $$33 \times (19) \times 5 = 30$$

- (23) ・「 $\vee$ 蘇民将来子孫也」
 ・「 $\vee$ ☆」
 77×16×2 23
- 溝状遺構
- (24) 「迷企羅大將」
 (穿孔)
 35×41×3 3
- (25) ×
 (梵字カ)
 (191)×(29)×7 13
- (26) (梵字)
 (157)×(30)×4 17
- (27) $\boxtimes$
 (118)×29×5 18
- (28) ・
 (梵字)
 218×(21)×2 22
- その他の遺構 (29) 不明、(30) 柱穴、(31) 土壙
- (29) ×
 (神カ)
 (98)×(32)×2 2
- (30) ×
 (梵字)
 (137)×27×6 9

(31) ・
 (穿孔)
 ならん
 (117)×24×5 16

木簡は計四一点発見されている。北側堀出土の木簡と井戸からの出土の木簡は総て呪符木簡である。それに比べ城郭南から東側堀出土の木簡は変化に富んでいる。将棋の駒(14)、内容は不明だが禁制文書らしき札(9)、仮名交りの板(8)(13)、穀類の付札(7)(11)などに、呪符木簡も認められる。特に呪符木簡では(12)が注目される。天形星皇・咄吠哩呪・蘇民将来子孫・地鎮鬼除といった呪句が含まれ、道場田・小川城遺跡の他地区から類似した木簡が認められているが、内容が盛りだくさんで興味をひく。また、唵々如律令、薬師如来、七鬼神、八鬼神・木火土金水、百遍敬白・奉轉讀大般若経などの慣用句がめだつ。

なお木簡の釈読にあたっては、奈良国立文化財研究所の鬼頭清明氏の御教示をいただき、呪符木簡については奈良大学水野正好氏の御指導をいただいた。記して深甚の謝意を表わす次第である。

9 関係文献

- 焼津市教育委員会『小川地区遺跡分布調査概要』(一九七九年)
 同『焼津市埋蔵文化財発掘調査概報Ⅲ』(一九八四年)
 同『焼津市埋蔵文化財発掘調査概報Ⅳ』(一九八四年)
 (原川 宏・山口和夫)